

# 私たちの軌跡

## プロローグ

*prologue*

きのう、友達にカードを引いてもらった。

(カードの話はまたあとで)

ゆかもんと2人で私達はお互いにとってどうい存在か。カード目線で見てもらった。

その中で今まで思っていたけれど言葉には出さなかったこと

「ゆかもんと私の当たり前を話す」

というはじめての時間をとることになる。

私は話し出したら止まらなくなって三十分位全力で話して、ゆかもんはそれを「うんうん」と聞いていた。

友達はずっと驚いたり、関心したり、考えたりしていた。

始まりは『雑誌の表紙をゆかもんが作ったココ。』

一緒に仕事をしながらも

お互いにお互いを認識していなかった時期もある。

そして、はじめて会ったのはこの日。

二〇二二年三月終わりのこと。実は超最近。

はじめて会った日から急にスイッチが入ったように

「2人で全力で仕事をする時間」

「2人で全力で楽しむ時間」が流れ込んできた。





もうずっと前から決まっていた仕事なのに  
それまでゆっくり進んでいたのに  
会ったあの日から急におかしい位に  
凝縮した時間、凝縮した出来事。

毎日笑って笑って

私達は「どうやるか」を話し合うことは沢山あるけど  
「やるかやらぬか」を話したことはない。

つまり「ひらめいたらやる」それ一択。

役割も決まっている。ゆかもんが0からおろして来たものを  
私が打って場外にとばす。それはお互いに息をするように出  
来ること。めっちゃくちゃ笑いながら出来ること。私にない部  
品はゆかもんが全部持っている。逆も然り。本当にそうかどう  
かなんてどうでもよくてお互いがそう思って安心してしまってい  
ることが最も重要。

## 「ひらめいたらやる」それ一択

同じ方向を見て同じ方法で同じ言語で無理に合わせた  
ことは一度もない。出来ない・やりたくないと思ったこ  
とも一度もない。

それが普通だと思ってやって来たけれど。  
一息ついた時によく言う一般的な普通ではないのかもし  
れないと思った。それはきのう私の話を聞いていた友達  
の表情を見て確信に変わる。

これから「私達の普通」をカタチにして出していく。

もちろんそれはブログじゃない。私達の出会い・私達  
のやり方・私達の出来事・「私達の普通」  
何かひらめいたからやって来たんじゃない。  
目の前に降って来る現実を2人で無邪気につかんで来た  
だけだ。逆なんだよ。現実が現れるから2人でそれに  
形を与えて来た。

一緒ならきつと楽しいに決まっていると

一瞬たりとも疑わなかったその先に

みんなの笑顔があったただだけだ。

お互いの笑顔があったただだけだ。

あの人もあの人もあの人も。

そしてこれから会うあなたも。

私達に触れるといい。

私達のやり方に触れるといい。

知るか知らないかはあなたの選択だ。

やるかやらないかもあなたの選択だ。

言っておくけど私達は天才だ。

知ったからと言ってあなたがやれるかは別の問題。

それでもあなたが望むなら必ず手元に届けます。

そうそれはもちろん私達にしか出来ないやり方で。